

# 高山右近列福祈願のつどい 心に刻みたい、 信仰を捨てなかった右近の情熱!

晴天に恵まれた6月8日、城星学園ホールに約400人が集まり、ユスト高山右近の列福実現を目指す活動の一環として「右近フェスタ」が開催されました。第1部では大阪・京都両教区の有志によ

れました。松浦悟郎司教も織田信長役で特別出演されました。参加者から「手作りの劇の中に宿った当時のキリシタン信仰が垣間見られた」との声も寄せられました。



オルガンチノ神父役のミケランジェロ神父  
信長役の松浦司教

によると、今後は、右近列福を目指す関連イベントにたびたび登場し、子どもたちにも右近を親しんでもらおうとのこと。第2部はコンサート。20年以上前に教会の仲間を中心にしてきたバンドが、フェスタのためにまた集められました。名付けて「ティーズ・カンパニー」



このフェスタを貫く軸は、イエスが身をもって示され、教会が長い歴史を通して保ってきた信仰にあり、宣教者としての右近が私たちに与えてくれた信仰の輝ける手本だということ。くしくも戦国時代に生まれ、高い身分・権力を与えられていた右近が、あえて信仰のみを懐にたたため、すべてを奪われて異国の地で殉教していった現実を思い起こす時、われわれが捨てきれずにいる、多くのこだわりに気づかされるのです。当日ホールに集まった参加者の心には、キリシタン大名として名をはせた、右近の深い信仰と人間像が深く刻まれたことでしょう。

による演奏で、オリジナル曲「ユスト高山右近の歌」をはじめ、教会で親しまれている聖歌も交えながら演奏され、心安らぐひとときとなりました。特にメンバー作詞作曲の「Simple Song」では、聴衆と出演者が手話で表現しながら合唱、会場が一体となり熱い思いに包まれました。

この集いは今秋9月15日にも引き継がれ、教区本部事務局を会場に展示と講演会が行われる予定です。また、フランススコ教皇による日本の地での列福式実現も決して夢ではない状況も生まれてきています。今後、このイベントの参加者が思いの言葉で、右近の信仰を自分の生活の場で語り継ぐならば、聖霊降臨の主日に開催した価値があると思われまます。

(文 右近クラブ実行委員)



る朗読劇『神の戦士ユスト高山右近』(制作・劇団フィオレッティ)が上演さ

4月末まで、各教会、カトリックの学校で右近のゆるキャラの名前が公募され、1511通の応募がありました。その中から、ゆるキャラの名前が「うーこんどの」に決まり発表されました(ゆるキャラ審査委員会による選定)。名付け親は、筒井瑞葵さん(応募当時小学校6年生)です。「みんなに親しみやすい」との思いを込めてこの名前を考えたとのこと。右近クラブ



ぼくのなまえを  
たくさんの方が考えてくれて  
うれしかったよ!  
ありがとう



<ゆるキャラデザイン>  
仁川学院 小学校図工教諭  
大橋直さん